



THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会  
宣教110~120周年  
標語

共に生きる  
いのちの天幕を  
広げよう

1963年9月20日 第3種郵便物認可 (毎月一日発行)

2020年6月1日 (月) 第795号

発行所 福音新聞社 (1部100円)  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3202-5398 info@kccj.jp  
発行人/ 趙永哲・編集人/ 金柄鎬

印刷所 青丘文化社

## 説教

# 白肅の嵐を経験して

<マルコ福音書14:32~36>

李根秀 牧師 (社会委員長)



1. 私がこの原稿依頼を受けたのが4月の23日でした。そしてこの原稿を書き始めている現在はゴールデンウィークも過ぎた5月10日であります。この間、日本政府による「非常事態宣言」による自肅の嵐が今でも吹き荒れています。この自肅の嵐の中でわたしたちの教会も決して無関係ではありません。私が所属する関西地方会大阪西成教会も例外ではありません。4月19日は極めて簡素化した礼拝順序で約30分程の礼拝時間でした。また4月26日と5月3日は礼拝堂に集まらず、各家庭での礼拝ということになりました。各地方会の現状報告を見ましたが、いずれの教会も似たり寄つたりの処置を講じているようです。違いと言えば、映像による礼拝をしているかどうかぐらいです。このような前代未聞の経験をしながら、この出来事がキリスト教信仰にとってどのような意味があるのかをつぎの二点について考えてみました。

2. まず初めに、時間短縮の礼拝についてです。礼拝時間だけではなく、交わりのプログラムや役員会なども含めて考えます。私たちはしばしば礼拝時間が長いとか、交わりの時間とか役員会は面倒くさいと回避しがります。それはわたしたちの教会での信仰生活において余分なものであり負担であるという感覚によります。そうした余分なもの、負担をそぎ落として、必要最低限のものだけを行えばよい。そうすれば、先ほど言ったように礼拝時間は30分で済むのだということです。そしてそれを実際経験しました。礼拝とは何か。それは「御言葉と賛美と祈りである」と私は理解しています。確かに時短礼拝にも御言葉と賛美と祈りはあります。ですから時短礼拝も礼拝に間違いありません。しかしながら、その礼拝に参加して感じることは「味気なさ」であります。それをたとえるなら、ちょうど生命維持のための病院食という印象です。確かにその食事さえしていれば、命は維持されるし、むしろ栄養士により管理された健康食でもあります。しかし、味気ないのです。普段、家庭で食べている料理がどれほど豊かな味わいであるのかを思い知らされます。同じように、普段の礼拝の順序がどれほど豊かな恵みであったのかを知らされました。招きの言葉、信徒代表の祈り、聖歌隊による賛美、消息 (広告)、そして献金の時間までもが恵みの時間であると思知らされました。それほど大きな恵みを受けているにもかかわらず、当たり前のように無感動でいた自分を恥ずかしく思います。

3. もう一つの点はより深刻なことで、教会の本質にかかわ

ると思われま。それは「教会の本質とCOVID19 (新型コロナウイルス) 感染防止」とでもいうべき問題です。教会の本質は言わずと知れた「エクレシア (集会)」であります。そしてそれはキリストを頭と仰ぐ集合体 (コミュニティ) でもあります。いずれにしても教会の本質は「集まる」ことを基本にしています。それに対してコロナ感染防止策というのは「離れる」が基本であります。互いに正反対の価値を持つものです。ですから今回のコロナ感染防止策としての自肅の嵐に教会は翻弄されることになるのです。いつも「集まれ」と主張してきた教会が今度は「来るな」というのですから、信徒が混乱しても不思議ではありません。混乱するだけでなく信仰理解が揺れて、まるで風の中の木の葉のようにくると信仰理解が変わります。まさに信仰の試練であります。しかしここで立ち止まって考えてみてください。私たちの信仰の基本は「神と私」の関係であるはずですから、特には神の前に立つ「個 (= 単独者)」であるわけですから、特に集まる必要がありません。にもかかわらず、教会の頭であるキリストは私たち羊に「集まれ」というのです。それは何故か。もし私たちが主なる神の前に立つ単独者として揺るぎのない信仰を持ち続ける事が出来るのなら、教会は必要ありません。しかし、私たちが風の中の木の葉のように信仰理解を変え、神の御旨より自分の都合を優先させてしまう弱さを捨てきれない存在だとすれば、教会はキリストがわたしたちに与えた恵みの賜物に他なりません。何故なら、ゲッセマネの園でキリストご自身が十字架という極めて過酷で厳しい試練を前にして、もたえ苦しまれたからです。それはとりもなおさず真の人間としての弱さを担われたということに他ならないのです。それ故に、私たちの人間としての弱さも知り、担ってくださるのです。そして自ら教会の頭として、親鳥が雛を集めるように私たちを教会に集めてくださるのです。教会に集うこと (エクレシア) は教義 (ドグマ) ではなく、恵みであり賜物なのです。教会に集い礼拝できることは当たり前で、むしろ牧師や親がうるさく言うので教会に行っている。私は今回の試練を通して教会の存在意義を悟る事が出来たことに感謝します。と同時に、今まで牧師や教会に甘えて自立 (自律) することができなかった自身の信仰の弱さを認め、この試練を乗り越える事が出来るように祈ります。何故なら、私たちが信じている主なる神は私たちが克服することのできない試練をお与えにならないからです。

## 韓日対照聖書販売



各ページ左に韓国語 (改革改版)、右に日本語 (新共同訳) が掲載されています。

- A5版変型・1772ページ
- 価格: 3,000円 (消費税・送料込み)
- ※お求めは總會事務所へ

## 韓日対照讃頌歌販売



韓国の新讃頌歌版です。交読文も韓日対照で掲載されています。

- B6版変型・1483ページ
- 価格: 2,500円 (消費税・送料込み)
- ※お求めは總會事務所へ

# 特集 新型コロナ19の感染危機と教会礼拝現状

## 関東地方会 つくば東京教会

洪性完 牧師

3月から主日礼拝は4月12日の復活祭の礼拝までは、礼拝中に窓を開け、讃美の時は声に出さずあるいはハミングで歌いながら教会堂で集うことができましたが、緊急事態宣言の発令に伴い、4月19日の礼拝よりYouTubeLive配信による映像中継に代えています。また、水曜祈祷会、教会学校子ども礼拝、野外礼拝、諸職会も中止、堂会はKakaoTalkを介して教会活動を論議しています。

教会において礼拝中継をしているスタッフ間にはZoomを通して、讃美チームのリーダー一人でプロジェクター画面を共有し讃美を15分間歌いつつ、教会員各々は画面（スマートフォンやPC）の前で礼拝にあずかっています。よって、11時にYouTubeLiveのURLを通して、また日本語を母語としている教会員にはLineを通して礼拝に備えるように通知します。YouTubeのLive配信は韓国語だけで進めるゆえ、プロジェクターに讃美チームによる讃美、礼拝への招きと交読、礼拝聖書は日本語でも読めるように用意しています。

しかし、主日礼拝説教だけは土曜日に日本語説教を録画してホームページにYouTubeのURLを掲載して主日礼拝の際に日本語を母語とする教会員がリアルタイムで視聴するように案内しています。もちろん願うならばホームページから説教原稿の閲覧もできます。

## 関東地方会 横浜教会

李明忠 牧師

横浜教会では、現在（5/17）でも礼拝堂での主日礼拝（11時）を続けており、4月からはYouTubeでのライブ配信も開始しました。従来80名前後が礼拝堂での主日礼拝を捧げてきましたが、現在では約半数の信徒がライブを見ながらの家庭での礼拝になりました。

YouTubeライブ配信は、主日当日は礼拝全体を繰り返し視聴可能です。その後編集し、説教部分（日本語・韓国語）のみを視聴可能に設定。礼拝に出席するかしないかは最終的に個人の判断に委ねています。週報は画像でSNSグループに送信・共有。SNSを不使用の方には郵送しています。

感染予防の各種対応としては、消毒液配置、マスク準備、マスク着用義務化、窓の開放・換気、間隔をあけての着席など。日曜学校も礼拝は中止し、分級のみ実施中です。

## 中部地方会 豊田めぐみ伝道所

李珍容 牧師

私たちの伝道所は信徒が少ないです。主日に集まる平均人数は10人ぐらいなので、礼拝堂に集まって礼拝を捧げることを優先しました。衛生のために規則を守り、もし体の状態がよくないか、その他の理由によって不安がある方々は、自分の家で礼拝を捧げるように勧めました。家で礼拝を捧げる方々のために礼拝手順、祈祷文、讃美歌の楽譜、説教の内容が纏められたカードをメールで送りました。礼拝堂での礼拝は略式で行い、礼拝以外のすべての集いは取り消しました。

共に集まって礼拝を捧げ、食事会の交わりをし、聖書勉強会を行った過ぎた時間が本当に大切な時間だと思われました。いつまでコロナウイルスによる困難が継続するか分かりませんが、神様が我々を憐み、力を与えてくださるよう祈ります。

## 中部地方会 名古屋教会

金明均 牧師

通常主日礼拝出席人数は130～140人です。2月23日からはマスク着用（ない人だけ教会が配布）、礼拝堂前にアルコール消毒液を配置しました。3月8日には、新型コロナ19への感染予防に関する動画を見、その日から主日午前礼拝のみを捧げ、礼拝内の聖歌隊の讃美の中止、その他午後礼拝や祈祷会、及び会議や集会等を中止しました。3月礼拝出席人数は平均90名程となりました。

4月19日から、教会での午前礼拝を中止し、動画を録画して教会ホームページやYouTubeにupし、ネット関係がない方への週報と説教要約の郵送を始めました。どんな形であれ、礼拝に繋がっている事は感謝です。オンライン礼拝なので、財政的には困難ですが、主が必要を必ず満たして下さり全ての信徒に恵みを下さると期待しています。

5月14日に愛知県緊急事態宣言は解除されましたが、推移を見ながら5月31日までこの体制で礼拝を捧げていく事になりました。（知らずに急に来られる人の為に、主日は礼拝時間に合わせ、スクリーンにYouTubeを映して礼拝を捧げる事が出来るように配慮しています。）

6月からは、続けて感染予防に努めながら、午前礼拝だけでも教会での礼拝を捧げる事ができればと期待しています。

今回の新型コロナ19の件で、人々の生活様式に大きな影響を与えただけでなく、教会生活にも少なくない変化をもたらし、今後の礼拝と福音伝道の可能性を、もう一度考えさせられる良いきっかけになったのではないかと考えています。

## 関西地方会 大阪教会

鄭然元 牧師

コロナ感染が日本で拡大する中、総会長の書簡（2020年2月27日）、大阪府、大阪市教育委員会の登校中止が宣言されたことにより、緊急堂会（2月27日）を開催し、総合的な情報を検討した結果、3月1日（日）の主日礼拝を合同礼拝で1回のみ捧げたのち、全ての礼拝と集会及び老人大学を中止することにしました。

また、教会堂防疫と消毒を実施し、消毒液とマスクを用意し礼拝時間にもマスク着用すること、教会学校休校決定を信徒たちに電話、SNS、教会ホームページを通して連絡を取りました。

3月15日に堂会、区域長連席集いを通して教友への信仰生活に関する指導と協力を要請しました。

4月7日に緊急事態宣言が発表されたため、4月12日の復活節礼拝からは全教会員の教会出席を禁じ、映像礼拝のみ捧げることになりました。以来、礼拝は説教者や同時通訳者、オルガン伴奏者、讃美引導者、教会職員を中心に礼拝をささげながら、実況をリアルタイムで配信しています。

映像礼拝と同時に、全信徒には週報と説教文（韓、日語）を発送しているとともに、ソーシャルメディアを通じて170人以上の教友に毎日聖書、讃美歌、黙想のメッセージを送っています。

教会学校礼拝は聖書勉強の教材を各家庭に送り、ズーム映像を通して離れている教師と学生が共に礼拝をささげています。

献金についても問い合わせがあり、銀行や郵便局の口座を案内し、教友の協力もあります。毎月の予算の約50%で、事態後も礼拝においては集団感染を防ぐ対策を検討しています。特に、教会創立記念主日、長老将立式、名誉職分推戴式は無期限延期されている状況であり、この事態の急速な収束と明るい教友の顔と対面し、礼拝をささげる日を切に願いつつ待っています。

## 関西地方会 京都南部教会

許伯基 牧師

5月10日現在も、ほぼ通常通り主日礼拝を続けています。ただし、4月12日の復活節を最後に、愛餐会と聖歌隊、教会学校はしばらく休止することとなりました。これらは各組織の自主的な決定によるものです。また、礼拝堂の換気とマスクの着用、信徒同士の距離の確保には気を使っています。

緊急事態宣言が延長される中、健康のリスクを心配して礼拝を休む信徒は多く、高齢者や健康に不安のある信徒を中心に、約6割の信徒たちが欠席した状態で礼拝を続けています。

また、他の多くの教会が試みている「インターネット中継」を、試行錯誤しながらも実施しています。

献金の急減による財政の悪化は顕著であり、復活主日献金のあった4月はなんとか持ちこたえましたが、5月からは何か緊急的な方策を講じない限り、財政は立ち行かないものと思われま。このような状況の中ですが、わが教会では「このような時こそ、祈り、讃美し、み言葉に聞く礼拝の火を消してはならない」という信念のもと、「リアル」な礼拝にこだわっていく予定です。

## 西部地方会 武庫川教会

梁栄友 牧師

4月19日から5月31日まで日本政府の緊急事態宣言に従いオンラインでの礼拝のみ行っています。他の行事などは100%中止しました。

24日の主日、緊急時代宣言が解除されることによって6月から午前礼拝と参加者が少ない早天祈祷会や水曜祈祷会、教会学校などは開始することとなりました。但し、聖歌隊や昼食と午後礼拝はしばらく中止となりました。

## 西部地方会 神戸教会

韓世一 牧師

4月12日の復活節以降、礼拝の自粛を行っています。礼拝前に必ず換気し、3密（密接、密集、密閉）を避けるように守っています。

礼拝堂での礼拝は、牧師をはじめ長老と勸士を中心とした10人以下の人数で礼拝を行い、他の信徒はインターネット（フェイスブック、Youtube）を通じて礼拝を行っています。特に、礼拝堂で礼拝を捧げる10人は、礼拝の前に毎回必ず体温と異常のチェックを行っています。

教会堂内では、すべての人はマスク着用を義務化しています。また従前の礼拝の順序を変更し、讃美と頌栄は各1回、説教は20分程度に短縮して礼拝を行っています。礼拝の後、すべての信徒は自分が座った場所の周辺をアルコールで消毒します。教会入口から礼拝堂までの通路も同様です。

神戸教会は、続けて日本政府や自治体からの発表に注目し、引き続き今のような方法で礼拝を続ける予定です。しかし、切に願っているのは信徒全員で礼拝を捧げることです。5月中に非常事態宣言が解除されれば、6月7日から試験的に全ての信徒と一緒に午前の礼拝だけでも捧げることができないかと祈って計画しています。

## 西南地方会 別府教会

趙顯奎 牧師

別府教会は3月8日（日）からオンライン礼拝を捧げています。教会に集まるのは牧師の家族、長老の家族、そして伴奏者のみであります。その他の信徒は各自家庭でインターネットを通して礼拝するようにお願いしています。礼拝の様子をインスタライブ（インスタグラムの機能）を使って放送し、毎週15人

くらいが接続して一緒に礼拝を捧げています。5月の末までオンライン礼拝を行い、6月の最初から再び集まって礼拝しようと思っています。

オンライン礼拝は、ご年配の方々インターネットの使い方に慣れていないため、オンライン礼拝を捧げることがなかなか難しいということがあります。その方々の為にも早くコロナが終息することを願っています。

また、財政的にも厳しい状況です。別府教会は教会堂を賃貸していることや、青年中心の教会であるため以前から財政的に厳しい状況でした。そしてコロナと重なってさらに厳しさが増している状況です。それでも、教会を守ってくださる主を信じ、祈りながら乗り越えていきたいと思っています。

## 西南地方会 博多教会

尹善博 牧師

4月1日より5月31日までの期間、各家庭で礼拝を守る事になりました。3月まではあの手この手と何とか礼拝を献げていましたが、県内での感染増加、教会近隣の福祉施設での集団感染報道、また緊急事態宣言を受けての対応が必要でした。

自粛の間家庭で礼拝が守られるように、特別な登録やアプリ取得の必要ない（誰でも利用でき、かつ時間制限もない）、youtubeを媒体に選び、youtubeliveで主日礼拝を生配信、またその録画を1週間公開し、同じ御言葉と祈り時間を分かち合ってきました。

各家庭という離れた場所での礼拝でも、神様の御言葉に出会う時間があります。教会から体が離れていた兄弟姉妹が礼拝を共にできたり、県外や海外に住む兄弟姉妹から礼拝をみているとの連絡をもらったりする事を通じて、共同体が臨在し合う新しい可能性を知りました。また教会員同士が知恵を出し合い、各家庭への生活支援も行い合うなど、このような時でも私たちが出来る愛の実践を通じて、復活の主は今を悩み苦しむ私たちと共に歩んでくださる事、そして必ず新しい命を示してくださるという福音を改めて体感しました。

## 西南地方会 沖縄教会

郭鏞吉 牧師

コロナ事態が発生した3月末から、米軍とその家族は軍部隊から外出(宗教行事、食堂、買い物)が禁止され、日本の小学校は臨時休校となり、教会は堂会を通して全ての礼拝と集会を中止しました。オンライン礼拝は行わず、各家庭礼拝と他教会のオンライン礼拝を紹介しました。4月の1ヶ月間くらいでコロナ事態が落ち着くかと思いましたが、沖縄にもコロナの感染者が増え続け、5月も教会のすべての礼拝と集会を中止する決定をしました。代わりに教会の礼拝室は閉鎖せず24時間開放し、手消毒とマスクをしたうえで個人的な祈りをする事を許可しました。コロナ事態が長期化されてしまったから、聖徒たちの中で担任牧師のメッセージを聞きたいとの意見があり、オンライン礼拝を先週から始めました。今までは全ての礼拝のメッセージを録音して信徒たちと共有し、いつでもメッセージを聴けるようにしてきましたが、神様が今回を通して音声だけではなくオンライン礼拝と動画をいつでも見ながら礼拝をささげるように用意してくださったと思っています。

教会での礼拝がない状況で一時的に献金が減ってしまうかもしれませんが、訓練されて教会を愛して祈る聖徒たちは献金生活をも良くすることを今までも見てきました。

コロナ事態で聖徒たちが経済的に困り、教会に献金をささげることを迷うと思われましたが、思ったほど献金する聖徒が減っていないと感じます。コロナ事態以後に世界はもっと非対面社会になると思いますが、牧師は神様と対面する場所に進み、命をかけてお祈りしながら命のみ言葉の中から乾かれない命の泉を出し、み言葉がなくて困っている人たちに伝えなければなりません。

関西聖書学院

# 2019年度卒業式」を挙行 本科生、研究科生6名が卒業

2019年度関西聖書神学院卒業式が3月22日午後3時本校舎(大阪北部教会)で挙行された。今回は世界的に伝染が拡大している新型コロナウイルスの影響で卒業生と関係者のみの卒業式を挙行了した。

卒業礼拝は、本神学院の教務である趙永哲牧師の司会で始まり、関西地方会長の林明基牧師が「新しい契約の奉仕者」というメッセージを伝え、その後学院長金武士牧師の卒業証書の授与と関西地方会副会長である金成元長老からの祝辞があり、最後に本神学院理事長である全聖三牧師の祝祷で礼拝を終えた。

今年度に卒業した神学生は、本科卒業生として、全珍相(大阪北部教会)、林美善(京都教会)、高栄玉(京都教会)の3名。研究科修了生として 金英姫(浪速教会)、杉安玉恵(大阪北部教会)、尹成花(和歌山第一教会)の3名となり、本科・研究科合わせて6名が卒業した。

関西聖書神学院は、在日大韓基督教会において仕える人材養成、また教会奉仕のための信徒教育と訓練と神学形成のために、1984年に関西地方会を中心に設立されて以来、今日までその役割を担っている。  
(報告:趙永哲牧師)



関西地方会

# 崔忠植牧師が召天 大阪KCC幹事として在日運動に貢献



去る4月14日、大阪KCC主任幹事、枚岡教会担任牧師などを歴任した崔忠植隠退牧師が召天した。満82歳であった。

故・崔忠植牧師は1938年日本の京都で生まれ、同志社大学神学部を卒業し、1967年に枚岡教会に講道師として赴任、1969年に牧師按手を受けた。1973年から大阪KCCの幹事として務めながら、出入国管理法案反対国際連帯会議の事務局長、大阪公営住宅入居闘争の座長、希望の家カトリック保育園の園長、京都東九条の地域運動などに多大な貢献を果たした。

葬儀は4月16日～17日にかけて、京都南部教会にて、新型コロナウイルス蔓延による緊急事態宣言の中、家族葬で執り行われた。(報告:許伯基)

神戸東部教会

# 玄承禎名誉長老が召天 30年間長老として教会に奉仕



神戸東部教会の玄承禎名誉長老が、去る2020年5月24日、83年の生涯を終えて天に召され、韓承哲牧師の司式のもと葬儀が行われた。83歳。

故・玄承禎長老は1936年韓国の済州道で生まれ、渡日後には立命館大学を卒業し、1963年大阪教会にて受洗し、1991年神戸東部教会の長老として将立、2008年同教会の名誉長老として推薦された。

## 牧師消息

# 隠退挨拶と現在の奉仕



## 朴憲郁 牧師

受難週と復活節の時節に、上よりの恵みと平安がございませうお祈り致します。

予期せぬコロナパンデミック脅威への対応に追われつつ、個人的な消息とご挨拶を申し上げます。小生は、母校である学校法人・日本基督教団立の東京神学大学の神学教育に二十四年間携わり、定年退職致しました。

教会関係では、所属する在日大韓基督教会に四十四年間牧師として仕え、今年三月末に定年隠退致しました。その間には、宣教協約に基づいて十八年間日本基督教団への国内宣教師の身分となり、東京神学大学で神学教師を務めました。同時に日本基督教団千歳船橋教会に二〇〇三年より十五年間主任牧師として兼務して参りました。

今や現役世代を走り終え、晩年を悠々自適に過ごす思いで

ありましたが、主はそれをお許しにならず、全く思いがけず、新たな教育の責務をお与えになりました。山梨英和学院からの要請を受けて、今年四月より院長の職務に就くこととなりました。誠に不相応な器であります。恐れつつ、主の召しにお応えして、同学院の学校教育と広く日本のキリスト教教育・伝道のために、微力ながら尽力する所存です。

なにとぞ、今後とも祈りによってお支えくだされば幸いです。これをもってご挨拶に代えさせていただきます。主に在って。

《連絡先》

☎193-0803 東京都八王子市檜原町1811-1

☎・Fax 042-686-3888. e-mail: hwpark1@wine.plala.or.jp

# 讃頌歌委員会より「子どもさんびか」が 発行されました。

主の祈り・使徒信条・交読文・十戒 集録  
(いずれも韓国語・日本語)

一冊1,000円

お問い合わせは総会事務局へ

電話 03-3202-5398



豊かな味、豊かな心。



# 妻家房

SAIKABO

代表取締役 呉永錫 (東京希望キリスト教会 長老)

四谷本店: 東京都新宿区四谷3-10-25 Tel. 03-3354-0100